

インクレチン関連項目

研究検査

2018年4月現在

検査概要

検査項目	Active GLP-1	Total GLP-1	Active GIP	Total GIP	DPP-IV 活性
検査方法	EIA	ECL	EIA	EIA	蛍光酵素法
材料	血漿（DPP-IV阻害剤入採血管）				血漿
必要量	0.7 mL	0.2 mL	0.4 mL	0.1 mL	0.3 mL
保存方法	-20℃以下				
定量 下限値	0.83 pmol/L	5.00 pmol/L	0.62 pmol/L	1.6 pmol/L	0.05 nmol/min/mL
納期	検体受領より1カ月				

その他、糖尿病関連項目（PYY、プロインスリン、膵グルカゴン、sCD26、sRAGE、グレリン、グルカゴンなど）も測定可能です。

特色

Active GLP-1及びActive GIP 測定は（社）日本糖尿病学会・（社）日本糖尿病協会 インクレチン測定標準化委員会「ヒトにおけるインクレチン測定に関する指針」（平成23年4月23日）に基づく、固相抽出法を用いた方法を実施しております。

固相抽出を行うことで血漿中阻害物質の測定系に対する影響を解消します。異常高値の原因を取り除くことができ、正確にバイオマーカーを測定します。



GloMax®-Multi
Detection System
(Promega社)

VersaMax™
マイクロプレートリーダー
(Molecular Devices社)



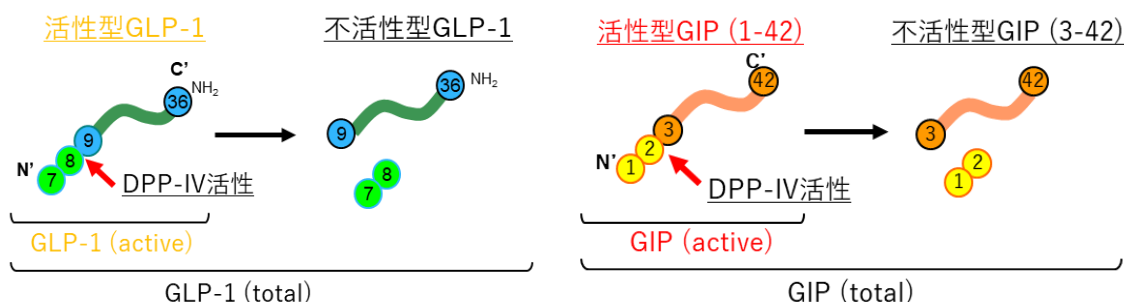
インクレチンについて

臨床的意義（測定意義）

GLP-1及びGIPはインクレチンともいわれる小腸から分泌されるホルモンであり、食事による増加に伴い膵 β 細胞を活性化し、インスリンの分泌を促進します。

また、GLP-1およびGIPはDPP-IVにより数分間で分解され不活性化します。そのため、糖尿病治療薬としてDPP-IVで分解されないGLP-1（GLP-1アナログ）やDPP-IV活性を阻害するDPP-IV阻害剤などが使用されています。

さらに、GLP-1とGIPは糖代謝だけでなく、骨芽細胞やカルシトニンの分泌などにも関与していることが示唆されており、骨代謝マーカーとしても期待されています。



性能データ

各キットで使用する抗体は活性型と不活性型を特異的に測り分けることができます。

他の測定項目に関しましても分析法のバリデーションを実施しております。

Peptide	Cross Reactivity (%)		
	Active GLP-1* (Millipore)	Total GLP-1** (MSD)	Total GIP* (Millipore)
GLP-1(1-36) amide	0.2	25	ND
GLP-1(1-37)	0.2	15	ND
GLP-1(7-36) amide	100	100	ND
GLP-1(7-37)	99.5	34	ND
GLP-1(9-36) amide	ND	38	ND
GLP-1(9-37)	ND	N/T	ND
GIP(1-42)	ND	N/T	100
GIP(3-42)	ND	N/T	100

^{*)} *Journal of Diabetes Investigation*, 2011

“Comparison of incretin immunoassays with or without plasma extraction: Incretin secretion in Japanese patients with type 2 diabetes”

^{**)} MESO SCALE DISCOVERY MULTI ARRAY Assay System

お問い合わせ



KPSL
九州プロサーチLLP

〒819-0388

福岡県福岡市西区九大新町4-1
九州プロサーチ有限責任事業組合
<https://www.kpsl.jp/>